

ロボット・AI と法

弥永真生 = 穴戸常寿 編

2018 年 4 月発売 / 328 頁 / 本体 2600 円 + 税
A5 判 / 並製



編集
担当者
から

ロボット・AI（人工知能）の進展に期待が高まる一方で、それらがもたらす悪影響を心配する声も聞こえてきます。本書は、すでに生まれつつある問題から近未来に起こりうる問題を視野に入れ、法学の立場から様々な知見を提供するものとなっています。「一定のルールはほしい、でも縛りすぎないでほしい」という要請に応えることはとても難しく、本書も明確な答えをすべての面で示しているわけではありません。しかし先端技術と法の関係について、多くの考えるヒントを提示しています。そんな「エッジの効いた」議論満載の本書ですが、例えばAIによる自動化取引を考えるにあたっては意思表示の意義、あるいはAIの刑事責任を考えるにあたっては刑罰の意義を振り返りながら検討が加えられています。その意味で、まさに第1章31頁で書かれているように、本書は「法学再入門」の側面ももっています。読者のみなさんにおかれましてはぜひ、この「先端」「基礎」の両面を体感していただきたいと思います。(S)

Index



第1章から第4章までは総論的内容、第5章以下は各論的内容となっています。

- 第1章 ロボット・AIと法をめぐる動き（穴戸常寿）
- 第2章 ロボット・AIと法政策の国際動向（工藤郁子）
- 第3章 ロボット・AIと自己決定する個人（大屋雄裕）
- 第4章 ロボット・AIは人間の尊厳を奪うか？（山本龍彦）
- 第5章 ロボット・AIの行政規制（横田明美）
- 第6章 AIと契約（木村真生子）
- ロボット・AIと競争法—（市川芳治）
- 第7章 自動運転車と民事責任（後藤元）
- 第8章 ロボットによる手術と法的責任（弥永真生）
- 第9章 ロボット・AIと刑事責任（深町晋也）
- 第10章 AIと刑事司法（笹倉宏紀）
- 第11章 ロボット・AIと知的財産権（福井健策）
- 第12章 ロボット兵器と国際法（岩本誠吾）